

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ブロッサムジュニア北神戸教室（児童発達支援・放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	2025年2月3日		～ 2025年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	2025年2月3日		～ 2025年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月22日		

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職による専門的な支援を実施している	公認心理士による「発達アセスメント」や本部の言語聴覚士や児童指導員による「ことばの支援プログラム」など、専門職ならではのツールを活用し、利用者の特性に応じたきめ細かい支援を行っている	作業療法士等の専門職を新たに配置することで、利用者に対し、あらゆる面からきめ細かい支援が可能となるので、早期に人材確保を行い配置する。
2	療育経験が豊富な職員を配置している	専門職を含め、療育経験豊富（児童福祉業界5年以上勤務）な職員が多く、療育プログラムを提供するにあたり、経験値や引き出しが多い。	今後も新たな人材を採用する際は、児童福祉業界における実務経験年数を考慮し、募集・採用活動を進めていく。
3	ロボットプログラミング教育	一人一個のレゴのロボットと一人一台のパソコンで毎回違うロボットを組み立てる。	さらに充実を図るための取組等充実させるためには、ロボット作りだけではなく、実際にプログラムを作成してロボットを動かしてみる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流が行えていない	立地やサービス提供時間の関係上、調整が難しい部分があり、現状、北神戸教室において地域交流の行事は行っていない。また、地域で行われる交流行事にも参加できていない。	立地やサービス提供時間の関係上、調整が難しい部分もありますが、可能な限り、地域交流の機会を持てるように努めていく。
2	(児童発達支援) 利用者は年中、年長が中心となっている	児童発達支援の利用者は年中から年長が中心となっており、小学校高学年以上の利用者が少ない。そのため、低学年向けの療育プログラムが中心であり、高学年に提供する療育プログラムに課題がある。	低学年向けの療育プログラムの際は、高学年の利用者には先生役や職員のお手伝いを任せるなど、療育プログラムや状況に応じた役割を与える。また、療育内容を学年別で難易度を設定する等の工夫をしていく。
3	入職から日が浅い職員が多く、関係機関や保護者とのコミュニケーションが薄い	入職から日が浅い職員は、保護者との個別面談や担当者会議にまだ出席できていないため、保護者や関係期間との関係構築ができていない。	全職員が保護者や関係機関の担当者と早い段階で面識が持てるように、担当者会議への参加促進や情報発信の工夫を行っていく。